

ねこの児童劇を鑑賞

平成20年度長崎県青少年劇場（県教育委員会、市教育委員会主催）が6月25日、松浦スポーツセンターで行われました。

県内の青少年に演劇や古典芸能などを鑑賞する機会を提供し、文化活動の振興を図ることを目的に公演されたものです。

この日は劇団たんぼぼが児童劇「100万回生きたねこ」を熱演。100万回生きた猫が一匹の猫との出会いによって「生きる」意味を見つけるというもの。参加した志佐小、上志佐小の児童、保護者など約580人はユーモアあり感動ありの公演に魅了されていました。



西海短歌祭で各賞決まる

第18回西海短歌祭が6月28日、文化会館で開催されました。

県内を中心とした短歌愛好家で作る西海短歌連盟（山口礼子会長）が、会員同士で学習しながら親ほくを深め、地域の文学の発展につなげたいと開催しているものです。この日は、約40人の会員が参加。事前に寄せられた55首の作品から、互選賞や選者賞などの入選作品が決まり、互選賞・最優秀賞に大久保正基^{まさき}さん（御厨・木場）の「犬を曳くつもりが犬に曳かれゆく吾八十の朝の散策」が選ばれました。

まちの話題



救命救急の手法を学ぶ

長崎県理容生活衛生同業組合松浦支部（金子^{ひでひさ}俣久支部長）は6月30日、松浦海のふるさと館横の漁村体験学習施設で救命救急講習会を開催しました。

同組合には市内で理容店などを営む43店が加入。毎年定期的に技術講習会を開催していますが、今回は万一の場合に来客の安全を守るために救命救急講習を企画したものです。

この日参加した23人は、約2時間かけて松浦地区消防組合の職員から指導を受けながら、人工呼吸・心臓マッサージの方法やAED（自動体外式除細動器）の操作方法などを学びました。



市民に苗木を配布 —九州電力・電源開発—

九州電力松浦発電所（中西章夫所長）と電源開発松浦火力発電所（西山千里所長）が6月17日、中央公園で苗木を配布しました。

環境月間の取り組みとして行われたもので、配られた苗木はハナヤナギ、ベンジャミン、ニューギニアインパチェンスなど6種類、合計400鉢。法被姿の所員など約20人が、配布開始を並んで待っていた多くの市民や公園近くを通行していた買い物客などに配布を始めると、苗木はあっという間になくなりました。





昔遊びや郷土料理に挑戦

上志佐小学校（田中輝久校長）の全校児童が7月6日、同校や上志佐コミュニティセンターで地域住民と昔遊びや押し寿司作りなどを通して触れ合いました。

同校では、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の一環として「日曜参観」を実施。この日は、各学年に分かれて、竹とんぼ作りや、郷土料理作り、おもしろ科学実験などを、地域のお年寄りや専門家などを招いて行いました。

1、2年生は、地域のお年寄りの指導を受けながら、竹とんぼ作りに挑戦。出来上がった竹とんぼが高く飛ぶと「すごい、すごい」と喜んでいました。

願い事かなうかな —福島郵便局で七夕祭り—

福島郵便局（森俊二局長）で7月3日、保育園児が七夕飾りを行いました。

同郵便局では、地域に根付いた明るい郵便局を目指して、この七夕の季節に毎年七夕飾りを行っています。

この日、飾り付けを行ったのは、ひかりヶ丘保育園（本庄圭子園長）と養源保育所（森静子所長）の園児たち。「おともだちとなかよくあそべますように」などの願い事を書いた短冊や飾りを、各保育所ごとに用意されたササの枝に結びつけていました。



東高生が苗木を寄贈

松浦東高（山口和秀校長）の生徒が7月8日、市役所に花の苗を寄贈し、市役所表玄関の花壇に苗を植えました。

寄贈したのはマリーゴールド、日々草、ヒマワリなど5種類の苗約500株。食品科学科と商業科の選択教科である生物活用の授業で育て、地域貢献活動の一環として植栽したものです。

この日は、食品科学科の3年生6人が花壇に花の苗を植えました。花は10月ごろまで楽しむことができます。



箏の音色に魅了—七夕コンサート—

箏曲・松実会（古賀^{てるこ}代表）演奏会～箏・尺八・三絃の調べ～七夕コンサートが7月6日、文化会館で開催されました。

同コンサートは、日本の伝統音楽であるお箏の普及を目的に毎年開催されています。

この日は、御厨地域を中心とした男声コーラス、御厨中の生徒、クラリネット奏者小田^{ともこ}智子さん、ピアノ奏者川口^{あきこ}晶子さんなどが発表。会場にはほぼ満席の約500人の観客が集まり、箏やクラリネットなど楽器の音色とコーラスのハーモニーに聴き入っていました。

